

新聞にみる野茂英雄のヒーロー像

The heroic image of Hideo Nomo in newspaper coverage

1k06B050-0

太田 聡一郎

指導教員 主査 リー トンプソン先生

副査 寒川 恒夫先生

[目的]

スポーツメディアは私たちの生活に密着し、私たちのアイデンティティが構築される過程にあらゆる角度から影響を及ぼす。ますます多くのアスリートが海外に進出し、「私たち」と「彼ら」という境界線が曖昧になりがちな昨今では特に、メディアは国民という集団を強調する。本研究では私たちの「日本人」としてのアイデンティティに焦点をあて、新聞という媒体を取り上げ、その中で語られる物語や、繰り返し使われる言葉によって日本人アスリートを通じて描かれるヒーロー像を浮き彫りにしていくことを目的とする。

[方法]

海外でプレーしたアスリートとして、日本人のメジャーリーグ挑戦の火付け役ともなった野茂英雄選手を題材とする。朝日新聞を対象とし、野茂がメジャー入りを果たした 1995 年から、引退する 2008 年までの記事を「野茂英雄」と「日本人」という 2 つのキーワードで絞り込む。その中で頻出する言葉を取り上げ、年代別の数量とも合わせ、先行研究と関連付けてスポーツメディアの傾向を探る。

[結果]

- ① 「日本人初の」、「日本人として初めて」というフレーズが最も頻繁に使われた。特に野茂のメジャー挑戦 1 年目である 1995 年に最も多く見られた。
- ② 「～人目の日本人」、「日本人として～人目」というフレーズは 2 番目に多く、野茂自身について述べられていたものの他に、「日本人としては野茂に次いで～人目」というように、新たにメジャーに移籍する選手について言及される際にも多く見られた。
- ③ 「パイオニア」「開拓者」「先駆者」など、野茂がメジャーリーグへの道を切り開いたとされ、それは引退前後も変わることなく語られた。
- ④ 「夢」という言葉が頻出したが、野茂の生き方が「アメリカンドリーム」として語られることが目立った。またその中で、「日本の管理野球に背を向け、新たな困難に自ら立ち

向かい、実力一本でやってきた野茂という人物は米国人に近い」と語られる傾向が見られた。

- ⑤ 「挑戦」や「成功」という言葉が野茂について使用される際に、日本の優れない社会情勢や暗い事件などが引き合いに出されることが多く見られた。

[考察]

①や②の結果にみられるように、「メジャーに移籍後初」ではなく「日本人として初」とみなされることは、野茂が築き上げた功績が 1 人のアスリートのものではなく、日本人全体の快挙であると捉えられて国民に伝えられたということだと考えられる。また、④で野茂がアメリカ的な人物として描かれた背景には、日本のプロ野球の古い体制を抜け出し、実力主義と言われる世界にあえて向かっていった野茂が「日本人らしくない日本人」として描写されていたことが挙げられる。グローバル化で成功した日本人というモデルを構築する為に、日本人らしさという物語はあまり語られず、より米国人に近い感覚を持つヒーローとして野茂英雄は描かれた。また、⑤の結果から、野茂の活躍は振るわない経済状況や暗いニュースに自信を無くした日本にとって希望であり、日本という国が目指すべき手本として示された。

野茂の選手としての成績に衰えが見え始めてからは、メディアは「諦めない力」や「挑戦し続ける継続力」などの精神面に重きを置き、「永遠の開拓者」として語り続けた。

以上を総括し、「アメリカンヒーロー」として描かれた野茂のヒーロー像の特徴は、

- ・ 縦社会という旧体制から抜け出し新しい世界へ挑戦する
- ・ 反対されても個人の夢を優先する
- ・ 実力主義の世界で結果を出すことができる
- ・ 過去の実績にこだわらず、大きな困難にあえて立ち向かう勇気を持った
- ・ 困難に屈せず挑戦を続ける寡黙でタフな人物である、と考えた。